

令和2年度第4回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進協議会会議録（要旨）

■開催日時 令和2年12月17日（木）午後3時00分～午後4時30分

■開催場所 府中駅北第二庁舎3階会議室

■出席委員 9名

都留会長、秋山副会長、岡本委員、小野満委員、小出委員、齋藤委員、
鈴木委員、中島委員、日時委員

■欠席委員 3名

加藤委員、金子委員、松本委員

■事務局

石橋政策総務部長、大井政策課長、吉本政策課長補佐、
岡村政策課副主幹、桜田理事、橋本主任

■出席説明員

（政策総務部） 政策課 山下副主幹

（行政管理部） 財産活用課 舟山課長補佐、菊池主査

（市民協働推進部） 協働推進課 阿部課長

地域コミュニティ課 三浦課長、本木課長補佐

（生活環境部） 観光プロモーション課 小塚課長

■傍聴者 なし

■議事日程

1 開会

2 確認事項

(1) 令和2年度第3回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会
会議録（要旨）について

(2) 具体的な施策・重要業績評価指標（K P I）進捗状況評価票の修正について

3 審議事項

(1) 具体的な施策・重要業績評価指標（K P I）進捗状況の評価について

ア 「地域交流・活動の促進」

イ 「ラグビーのまち府中推進事業」

ウ 「市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業」

4 その他

■会議録（要旨）

○会 長 それでは、ただいまから令和2年度第4回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を始めます。

まず、本日の委員の出席状況を事務局から報告してください。

○事務局 （出席状況の報告）

○会 長 ありがとうございます。

続いて、事務局から本日の傍聴希望の状況を報告してください。

○事務局 本日は傍聴者なしです。

○会 長 それでは、本日は傍聴者なしということになります。

続いて、本日の配布資料について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 本日配布した資料について説明いたします。

（配布資料の確認・説明）

【報告事項】

○会 長 資料はお揃いでしょうか。

それでは議事を進めます。

次第の2「確認事項」ですが、案件としては2件です。

1件目の「令和2年度第3回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会会議録（要旨）」について、事前に事務局からデータを送付してもらっていたので、各委員は確認いただいていると思いますが、事前に事務局に委員から修正依頼等はありませんでしたか。

○事務局 特にありませんでした。

○会 長 この場でも結構なので、他に修正はありますか。

(委員の意見等なし)

○会 長 修正意見等ないようですので、事務局は公開の手続きを進めてください。

○会 長 次に、確認事項の(2)「具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票の修正」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 (資料2に基づき、修正部分を説明)

○会 長 前回の審議内容に基づいた評価票の修正の説明でしたが、意見等はございますか。

(意見等なし)

○会 長 私のほうから細かな点で、9ページの網かけの部分の3行目の「昨年度」という言葉ですが、ほかのところでは年度を明示しているので、「平成31年度」などと変更してください。

○事務局 確認し修正します。

○会 長 他にありますか。

5ページから6ページにかけての公共施設・インフラの計画的な管理及び運営について、今回はあまり気にならなかったのですが、KPI②の公園の都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度については、1回もA評価がなかったのに、5年間通算するとAと評価されるのは、何か変ではないかという気がします。

そこはもう少し正確に言いますと、確かに市民満足度の数字というのは、大体7割ぐらいをキープしているのでA評価なのだということをもっと詳しく説明すればいいという意見だったと思い、そうだろうと思ったのですが、よくよく見ると、全部BとCなのに、それがAに変わっている理由がよく分からないのです。

1回でもAがあれば分かるのですが、1回もAがないのに、どうなのでしょう。これは、担当課評価の問題ですから、我々協議会が直接どうこうしてほしいという問題ではありませんが。

○事務局 前回のご議論では、そこまでの論議にはなっていなかったと記憶しています。主管課評価のK P Iが2つございますけれども、片一方の公共施設の市民1人当たりの延べ床面積等につきましては、これまでA評価、B評価という形で推移しております。

公園や都市緑化、緑の方の市民満足度につきましては、B評価あるいはC評価という形になっておりますけれども、前回担当課が説明したところでは、K P Iの目標値を非常に高く設定しているためとしていたところでございまして、市民満足度調査全体の中では、緑についてはトップの成績を取っていることもあって、主管課としては、①の部分、②の部分合わせてA評価としてもよいのではないかと考えているとのことでした。

また、その点について、A評価にするには記述が足りないのではないかというご意見をいただきましたので、今回、その部分を書き加えて再度提出させていただいたという流れであると理解しております。

○会 長 ありがとうございます。私の誤解も少しありました。

これは①と②の2つの項目に対する評価ですので、②だけに着目したものではないので、これで構わないということによろしいでしょうか。

○委 員 前回欠席していたので、そのときの議論は分からないのですが、会長が問題提起された部分に私も同感する部分がありまして、

総合評価として仮でAとしたとして、①と②のそれぞれの評価を見たときに、①が②のいろいろな部分をカバーして、全体のAというところに引き上げるほど、①の評価というのが本当にいいのかは少し疑問があります。あくまで総合評価で5年間の評価ということだとは思いますが、そのときに、この今の加筆したロジックでは、①が②をカバーして全体を引き上げているという書きぶりにはなっていないと思います。もし本当に総合評価を担当課としてAにするのであれば、Aというところかなり評価が高いというものになると思うので、ずっとBやCで来ていた②をカバーするだけの①の評価でしょうか。結局、ここ数年というのは①もBなので、全体をAに引き上げるとなると、会長がおっしゃったようなところの問題を含めて、書きぶりを変える必要があるかと思います。評価を引き上げるというところの、読み取れない部分を少し補足して説明していただければよいと思います。

○事務局　それでは、担当課と調整をいたしまして、最終的にあらためて皆様にメール等でご報告する形にしたいと思います。

○会　長　これは個人的な感想ですが、それを相殺するようなことは書けないような気がします。というか、そうなると、完全に作文の世界になってしまうので、A評価でいいのかなというふうにも感じられますね。

○委　員　そうですね、我々のほうからこれをAやBにしろとは言えるものではないので、もしAのままでいくのであれば、この網かけのところは理由としてちょっと弱いところが感じられたので。

○会　長　そういう意見が出たと、それでどうするかというところは、担当課で判断してもらいたいと、いうことでよろしいですか。

○事務局　そういうご意見を含めまして、担当課と調整させていただきます。

○委員 緑の満足度としては70前後ということで、高い数値ではあるのですが、評価の中ではあまり数値として出ていないようです。その満足度が高まったというところで、評価票に書かれたK P Iとは別のもう一つの判断がそこに加味されているということなので、A評価にはなるのではないかというふうに感じます。そのあたりを評価の中でもう少しはつきり書けるとよいのかなと思います。

○会長 今回の委員のご意見も踏まえて、要するに①の延べ床面積のところで、相当頑張ったのだけどという思いがあって、②のほうはやや軽視されているような、実際、ボリュームもそういうボリュームになっているので、全体的に考えて、総合的に考えてどう判断されるのかを事務局で調整いただければ、それで結構です。

○事務局 会長、ありがとうございます。こちらの部分今おっしゃられるとおり、K P Iの数字だけを見た場合には、確かにここの字面だけを取った場合にA評価というのは確かに難しいところだと思われまます。ただ、主管課の思いといたしましては、先ほど委員がおっしゃっていただいたようにK P Iでは見えない要因の部分で、かなり頑張ってやってきたという思いがございまして、そういうところを表したA評価を主管課としては、説明したいというところでもう出させていたいただきましたが、表現できていないところを今回新しく文書として追記させていただいたところですが、K P Iとの関連も重要ですので、そこにつきましては、改めてまた担当課に伝えまして、状況評価のほうを考えたいと思いますので、その結果につきましては委員の皆様にご報告させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○会長 ほかにこの網かけ部分についてご意見ありますか。
よろしいようでしたら、今の点について担当課と協議の上、その結果を何らかの形で公開の手続の前に協議会にお知らせください。
次に、次第3「審議事項の具体的な施策・重要業績評価指標（K P I）進捗状況の評価について」に移ります。

最初に、施策「地域・交流活動の促進」ですが、まず、市の担当課の方から担当課評価等について説明をお願いします。

○市担当課（地域コミュニティ課） （資料3に基づき説明）

○会 長 ありがとうございます。
 それでは、担当委員より説明をお願いいたします。

○担当委員 それでは、協議会評価という形で説明させていただきます。

まず、①につきましては、事業参加者数の大幅な減少が見られたという中で、これは新型コロナウイルスと悪天候が影響しているということが推察されます。前者に関しては、当面の間、やはり収束のめどが立たない状況下にある中で、ウィズコロナの観点から、3密回避など十分な対策を行った上での事業開催のあり方の検討が重要であると考えております。また、こうした対応が遅れた場合は、事業参加者数にとどまらず 事業数の大幅減の可能性もあり得るので、喫緊の対応を期待したい。それから、それと併せてコミュニティ協議会委員の世代交代など、事業の次世代の継承に向けた運営面での取組への着手にも期待したいということです。

②につきましては、昨年度から1事業増加していたという点は高く評価できるといたしました。また、昨年度に指摘した企業等との連携数が増加している点も評価に値するとしました。しかし、次年度は新型コロナウイルスによる影響を極力回避するために、3密回避を基本としつつ様々な観点（事業内容、開催方法など）から対策を講じることが必要であるとして、協議会評価としては「B」といたしました。

なお、このコロナの影響というものをどこまで加味してこの評価をするかという点に少し悩んだのですが、イベント系であるということで、昨年度末の2月、3月にはいろんなイベントがあったかなと思いましたので、あえてイベントということに関しては、コロナの影響をかなり受けているし、今後も受ける可能性があるということで、この部分を一応強調した書き方になっております。

○会 長 ありがとうございます。今の担当委員の協議会評価の内容について、何かご意見がございますか。

担当委員の協議会評価の前に、担当課評価のところ細かい言葉遣いの関係なのですが、2ページに「大学との連携については、市内の大学等」とありますが、対象は大学以外に考えられないので、「等」は要らないのではないかと思います。

それから、3ページ目、②で「市内の大学や過去からの協働実施している大学と事業を実施する。」ということで、別に「等」はついていません。「等」があるのは専門学校などのことが考えられますので、要らないのではないかなと思います。

それから、企業との連携についても、相手が企業だけであれば別に「等」は要らないので、例えば、企業の形態でないような団体が含まれている場合には「等」が要るかもしれませんが、これもどうなのかと細かい点ですが感じました。

○市担当課（協働推進課） ご指摘の2ページ目の「市内大学等」の「等」につきましては、「大学との連携」ですので、「等」は必要ありませんので、ご指摘のとおり削除したいと思います。

また、同じく2ページ目の「企業等」につきましては、企業だけではなく団体等との連携も含んでおりますので、「等」を残させていただきますと思います。

○会 長 ありがとうございます。

担当委員のところに戻りますが、何かご意見がございますか。

1点、「ウィズ・コロナ」という言葉は、やや曖昧な表現ですので、あまり使用しない方がいいようにも思いますが、いかがでしょう。

○担当委員 恐らく完全に収束するということは数年多分ないのではないかとこの中で、コロナの状況の中でどう付き合っていくかということで、この短い文章の中で思いを伝えるためにこれを入れたのですけ

ども、無くても「3密回避など」というところから始めてもいいか
と思います。

○会 長 それではその形をお願いします。
ほかにいかがでしょうか。

○委 員 担当課の評価で、特に②のところなのですが、5年間の②のK
P I評価を見ていくと、BCBBBと、Aが1度もないという状況
で、担当課の5年間の総括の②を見てみると、いいことばかり書い
てあるような感じがします。どうしたらAになるのかとか、どんな
課題があるのか、なぜBなのかといったところに言及する必要はな
いのかなという疑問を感じたので、お答えいただければと思います。

○市担当課（協働推進課） こちらに記載はしていませんが、最初の現状
値が59、令和元年度は55という数値にとどまっています、Bのや
や遅れているという評価にしていますが、当初の59まで届かなか
ったというところは、担当課としてももっと増やしていきたいと思
っております。

また、企業との連携については、協働推進課だけでは進まなくて、
いろいろな主管課が企業や大学と連携していくために、やはり私た
ちがもっとつなぎ役になる必要があるというふうに感じています。

この包括協定につきましては、企業と結ばせていただいているの
ですが、それを生かすも殺すもつなぎ役がきっちりと働いていない
と、これからはうまく進んでいかないと思っています。パートナー
同士をつなぐという役割を私たちの取組においても強化していく
ことを、今年度から始めているところです。

○委 員 5年間の総括のところ、あくまで目標に達していないとい
うことに言及した上で、例えば令和2年度における取組に、今のご説明
の内容を書き加えていただければよいと感じました。

○会 長 ②に関して言うと、いったん落ちたものが盛り返しているとい

数値の動きがあるので、努力は認められるのだけれど、現状値に届いていないということを素直に認めてはどうかということが、今の委員のご発言の趣旨だと思うので、現状値に届いていないということは認めた上で、でも頑張っているという書き方でいかがでしょうか。

○市担当課（協働推進課） 修正した後、事務局を通じて委員の皆さまに確認させていただきます。

○委員 担当課の進捗状況の評価の①で、4行目の事業参加者数の減少の原因が、地域まつり開催時期の悪天候や台風19号の上陸による事業の中止、年度末の新型コロナウイルス感染拡大による事業が中止になったことによると書かれているのですが、実際に私が、今、コミュニティ事業とは別に社会福祉協議会と一緒に活動している中で感じるのは、各文化センターの事業参加者数は平成29年度ぐらいから徐々に落ちてきています。

実際に文化センターまつりなどに参加しても、参加人数が少なくなっていると感じる現状があって、そして台風によって極端に減ったのですけれども、その前から徐々に落ちていたと感じます。私の感想ですが、やはり魅力が欠け、そういうふうな意味で落ちてきているのではないのでしょうか。みんなが参加したくなるような魅力が徐々に落ちてきていて、年齢層も高齢者の方たちだけになり、若い人たちや普通の子育て家庭の人たちがたくさん来るといってもないという現状があります。ですので、減少した原因が天候などだけというのは、少し疑問を感じるところです。

○会長 今回の点について担当課はどのようにお考えですか。

○市担当課（地域コミュニティ課） 委員ご指摘のとおり、平成29年度あたりがピークで30年度では減少してきています。30年度については、押立文化センターの地域まつりが台風の接近によって中止になったことで7千人ほど減になりましたので、その影響が現れたと捉

えています。全体的な傾向としては、委員のおっしゃるように微減傾向になっています。元年度は、地域まつり開催時に雨が降ったり気温が下がったりという状況でしたので、地域まつり全体的に参加者数が減少しました。加えて、台風19号の接近により、当日の地域文化祭という事業が3センターで実施予定だったのですが、全て中止ということになり人数が大幅に減りました。

加えて、新型コロナウイルス感染拡大によって、2月の後半以降3月までほとんど全ての事業を中止し、これらの影響により令和元年度は5万人ほど減ってしまったものと捉えております。

また、委員のご指摘にもあった魅力が欠けるのではないかということですが、これについては我々としても同じように課題と捉えています。組織の全体的な高齢化という点もご指摘のとおりで、新しい団体に活動に加わってもらい、世代交代を促していくことを市としても今後取り組んでいきたいと考えています。

○会 長 委員がおっしゃったりたかったことは、もっと質的な問題だろうと思うのですが。

平成30年度には台風で中止があった、令和元年度にも台風とコロナがあったというのは事実で、それによって参加者が減ったというのはそうなのでしょうが、例えば担当課評価の①のところでも、圏域ごとの課題については、他のセンターの成功事例を参考にし、改善を試みているというふうに、質的な面に問題があるということを確認しているわけだから、そのところを何かもう少し書きぶりはないものかという意味で、委員はおっしゃっているのだと思います。ですので、先ほど口頭で説明されたようなことが実態だろうと思うので、それをストレートに書いたらいいのではないかという気がします。

○市担当課（地域コミュニティ課） 先ほど申し上げたことも含めまして、担当課評価の欄をもう少し記載を加えて、事務局を通じてご確認いただきたいと存じます。

○会 長 成功事例はあるのですか。

○市担当課（地域コミュニティ課） 少し細かい話になりますが、最近、ハーバリウムにかなり人気がありまして、そうしたものの講座をある文化センターで実施したところ好評だということで、それが他のセンターに波及していったり、あと親子の料理教室などの料理関係の教室がたいへん人気がありまして、抽せんになるような講座ですので、そうしたものは講座の回数を増やすなど、内容が面白いものは各センターで情報を共有して、多くのニーズを捉えて数多く実施するなど、そういったことは実際に行っております。

○会 長 そういう点も加味して、少し修文されたらよろしいのではないかと思います。

○会 長 ほかに何かご意見ございますか。
ないようでしたら、この施策についての審議はこれまでにしたいと思います。
続きまして、施策、ラグビーのまち府中推進事業に移ります。

○市担当課（政策課オリンピック・パラリンピック推進担当）
（資料3に基づき説明）

○会 長 この施策については全員で評価することにしていて、事前にご意見をいただいて、それを事務局が取りまとめているので、事務局から説明をお願いします。

○事務局 （別紙により説明）

令和元年度は、ラグビーワールドカップ2019の開催年でもあり、公認チームキャンプ地及びラグビーのまち府中のPR事業が多数実施された。

指標①のラグビー関連商品の開発について、目標が20件のところ8件であり、評価としてはB評価、テレビドラマとのコラボ商品の開発が進み、大きくPRできたことは評価できる。ラグビーワー

ルドカップ2019以降も継続した取組が期待される。

指標②③では、トップリーグ2チームや市内ラグビーチーム、市民団体との協働事業の参加者、事業者数共に増加しているとともに、市民認知度もほぼ横ばいを維持している。

指標④も目標値を上回った。集客やアピールはできているが、肝心な指標⑤の市民の認知度が下がっていることが気にかかる。市内の子供たちを対象にした取組、イベントなどでラグビーのまち府中を盛り上げていただきたい。5年間の総括としては着実に進んでいるが、コロナ禍にあつて、機運を途切れさせることなく工夫した事業展開を期待するとしておりまして、評価につきましては、3名の委員からA評価をいただいております。

○会 長 意見を出された委員の皆様、あるいはその他の委員の皆様、今のこの取りまとめ方について何かご意見がありますでしょうか。

委員の評価はどうですか。

○委 員 評価できないということではなくて、AなのかBなのかというところで悩んで、つけられなかったのです。私としては①が8件というのはすごく前進だと思っています。目標の20には全然達していないのですが、ずっと3件だったものがやっところまでというか、いい具合にPRできたというのがあるのですが、その続きがしっかりとできてくれたらうれしいといったようなことで、期待を込めたA評価であってもよいと思います。

○会 長 ほかにご意見ありますか。

○委 員 K P I の①番から③番に関しては、目標値を上方に再設定しているのですが、例えば5から20とか、5,000から1万、2から9に再設定しているのは、これはどういう理由で設定し直したとどこかに書かれているでしょうか。

また、⑤に関しては、ラグビーに関係するものであるけども、そのままずっと同じ数値を使っているの、そこに関して説明をお願い

いします。

○事務局 K P I の目標値を変えている点ですが、②の目標値は当初は5,000としたところが、平成28年度の実績が7,500になり、目標値を1.5倍も超えて達成をした関係がありまして、取組をさらに続けていけば、さらに増えていくだろうということで、目標値を1万に上方修正しているという状況でございます。

また、③の指標につきましても、当初の段階では市民の連携の指標は目標値2としたところですが、平成28年度の段階で既に5と目標の2.5倍の数値を達成していますので、同じく上方修正をして、9という数値に変更をしたところ です。

なお、上方修正しているもう一つの理由として、平成29年度から国から地方創生の交付金を受けられた関係もあり、その交付金を活用して事業を展開していけば、さらなる高みを目指せるのではないかと考え、上方修正をさせていただいたところ です。

⑤の市民世論調査に基づく推計値のラグビーの認知度につきましては、平成29年度の段階で目標値に達していないということもありまして、引き続き当初設定した目標値を使わせていただいているという状況です。

○会 長 今回の説明でよろしいですか。

○委 員 理由は分かりました。それで、今説明していただいた①番から③番の上方修正された内容は、どこかに文章として明文化されているのかということを確認させてください。もしなければ、これはどこかにあったほうがいいと思いました。

○事務局 当時の平成28年度、29年度の段階で文章化したかは手元に当時の資料がないものですから、また改めて確認をさせていただき、今回のこの指標の部分へ当日そういう意見があったというような形で記載を考えてまいりたいと思います。

○会 長 他に意見ございますか。よろしければ、このまとめ方で事務局側
にお願いしたいと思います。

それでは、次に全委員による評価として「市有財産の活用による
中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業」について担当課か
ら説明をお願いします。

○市担当課（財産活用課） （資料3に基づき説明）

○会 長 この事業も委員の方々からいただいた意見を事務局がまとめて
いますので、事務局から説明をお願いします。

○事務局 にぎわいの創出としての取組は、まちが整ってきたこともあり順
調だが、競馬場とのタイアップ事業の停滞は気にかかる。指標①に
ついては、ふれあい会館、府中グリーンプラザ共に今後に向けた取
組が順調に進行している。指標②については、連携事業等の工夫が
休日の歩行量増加につながっており、良好な推移となっている。指
標③については、大型商業施設間の連携強化等ソフト面の充実によ
り、伊勢丹府中店閉店の影響をカバーし、前年を上回る実績となっ
ている。さらなる事業展開を期待し、にぎわい回遊性の向上に努め、
エリアマネジメントの推進を市として支援してまいりたい。

指標④⑤は、目標値に届いておらず、このままでは目標達成が難
しいが、昨年度に比べると増加しており、今後、春・秋競馬開催時
期に併せてそれぞれの実施について期待したい。

なお、2名の委員から評価Bをいただいています。

○会 長 ありがとうございます。

この「市有財産活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり
推進事業」について、まず、協議会意見としてこういう取りまとめ
方でよろしいのかどうか、ほかに担当課の説明に関してご質問等が
あればお願いします。

○会 長 指標③について、伊勢丹府中店閉店の影響をカバーし、前年を上回る実績になっているというのは、確かに350億円から360億円に10億円増えているわけですが、伊勢丹府中店の売上げはどれくらいだったのでしょうか。

140億くらいですか。140億がなくなったわけですよ。それをカバーできたということですが、何によってカバーできたのでしょうか。

○事務局 350億円から360億円に、平成30年度から令和元年度10億円ほど増えておりますけれども、こちらカバーした要因というか、伊勢丹府中店が閉店した時期が9月頃だったと思いますが、それまでの売上げがあったこと、また、閉店に伴うセールなども実施はされたところもありまして、伊勢丹府中店の売上げは、令和元年度の360億円の中にも一部含まれていると考えています。そのほか、新たな施設の売上げなどもありまして、前年を上回っているというような状況になっていると考えております。

○会 長 だとすると、この360億円の中には、伊勢丹の売上げもかなり入っているわけですよ。そうすると、伊勢丹府中店閉店の影響をカバーし、前年を上回っている実績になっているという書き方では、やや誤解を招く書き方かと思います。

伊勢丹は9月末の閉店だったと思いますが、10月以降はその分はほかのところがカバーしたのだろう。だけど、9月までの売上げは含まれているから、何かこの書き方だとやはり少し変ですね。

○副会長 修正が必要だと思います。事務局に事実の確認をしていただいた上で一度文書を修正して、また再度皆さんに連絡をするような形かと思います。

他にも少し気にかかる部分もありまして、例えば、まちが整ってきたということも、今実際には、去年もそうですけど、実際には撤退したということもあったりとか、いろんな意味でちょっと修正ポイントがあると思いますので、その辺は会長、ちょっと宿題にさせ

ていただいて、協議をと……。

○会 長　　ちょっと数字の事実関係の問題もありますので、確認していただいて、もう一度事務局と会長、副会長で修正案を吟味して、皆さんにご提出するというプロセスを踏ませていただきたいと思いますけど、いかがでしょうか。

○委 員　　最後のこの部分に関して、2点よろしいですか。

1つは、会長がおっしゃった伊勢丹閉店の話に関しては、私もこの文の中には、大型商業施設間の連携強化とソフト面の充実によって書いて、その後に、それによってカバーしているというのは少しおかしいのではないかと思います。別に伊勢丹撤退をカバーするために連携強化を図ったわけではないと思いますし、そういう意味でいうと、閉店したものの前年を上回るというくらいの書き方でもいいのかなと思いました。

もう1点は、指標④、⑤に関してまとめ案があると思うのですが、少し違和感がありまして、K P Iの指標のどこを見ていただくと、④、⑤のところで目標値が20から100、200から1万6,000という形で上方修正されていますけども、その設定がそもそも妥当であったのかなというところを、この協議会評価として言及してもいいのではないかと思います。

というのは、明らかに④のタイアップ参加店舗数は17から、100になったと。そこからちょっと下がっていている。それから、タイアップ来店数に関しても、104から1万7,190まで上がって、翌年度以降また下がっていているのですが、こういうものを行うときは、オープニング効果で最初何かやり出した時は、1年目に大きく成果が出ることがあると思うので、そこを基準にK P Iの指標を設定してしまったということがいいのかというところは、これは担当課というよりもこちらの協議会の中でそういう投げかけとして入れておいても、そもそもK P Iの設定が妥当だったのかということ、可能であれば入れていただきたいと思います。

また、それと関連して、5年間の評価のところの同じ部分ですが、

回遊性向上を図るといふところの中で、この数値に関しては目標達成に至っていない状況であるとしか書かれていなくて、ここも担当課のほうでも、目標設定の妥当性に関しては言及する必要はないかもしれませんが、極端に減った理由、要因に関しては、しっかりと整理して書いていただいたほうがいだろうと思いました。

○会 長　これは私の単なる推測なのですが、目標値が引き上げられたのは、中心市街地活性化で補助金を獲得できたからだろうと思うのです。今のご意見は当時から委員であった我々も知っていたわけで、そのときになぜ問題にしなかったのかという話が返ってきますよ。

○委 員　ここまで見て初めて、やはりこの数値が上がってこなかったという中で感じたことなので、確かにそういった話が出てくることは認識した上での発言なのですが、ただ、何かやはり協議会として言及する必要はないのかと思うのですが、結局それは我々自身の反省でもあるのではないかとこのところで提示させていただきました。

ですので、会長のまとめとして、そこはもう言及しないということであれば、それはそれで異論はありません。ただ、担当課の5年間の評価の中で減ったことだけではなしに、その減っていった理由に関して少し言及していただくといかなと思いました。

○委 員　不確かな記憶なのですが、はじめは紙媒体でやっていって、大きく数字が動いたのですが、アプリに変わったかなどして、店舗も撤退してしまって、年齢の高い競馬場ファンの方もちょっと使えなくて、数が下がったというような記憶があります。やり方が変わったのを元に戻すことはできないのかもしれませんが、うまくもっとやっていけないといけないね、というようなことを話した記憶があります。

ですので、実施方法が少し変わったのが一つの大きな原因で、ここで調子がよかったから目標値を上げたけど、次のやり方が変わってしまったというような私の認識があるので、そのように増えている分には頑張っているのかなというふうに捉えなければいけない部分と、もう少し違うやり方もあるのかなというふうに考えていか

ないといけないかと思っています。

○委員 それに加えて、恐らく助成金があったので、大々的に宣伝して、市内だけではなくて他市にまで宣伝していたような記憶がありますので、そのときは特別だったような気がします。

その後、そのような形ではなくて、普通の自分たちだけでやるというかたちに戻ったということで、条件が全く変わってしまったような記憶があります。

○委員 あとA地区の開発がこの時期だと思います。そういう中で、小さい飲み屋さんなどがどんどん減ってしまった状態になっていたのではなかったかなというのが、多分まちも人通りの状況と同じぐらいの時期だったと思うのですけど。

○委員 今の話をどこかに書き入れていただく程度で納めるということでは考えられないでしょうか。

つまり条件が当時から変わってきたので、その数字的にも期待していたほどの目標値には行っていないということを、これは協議会の中でフォローしていけることなのか、それとも5年間の中でも担当者のほうで何か、設定値に対する妥当性とかは撤回させていただいて、今の話をどこかに入れていただくと、スムーズにこの評価は読み取れるのではないかと思います。

○会長 今おっしゃったことについてはっきり覚えていないので、事実確認をしていただいて、そういう事実があったとしたら、それは書くべきところというのは担当課部分だと思います。ですので、その修文を、突き合わせていただければと思います。

○事務局 それでは、担当課に過去の取組の内容ですとか、宣伝の状況ですとか、事実関係を確認させていただきまして、修文してまいりたいと思います。

○会 長 この施策で本日予定されていた3つの施策についての審議は終わります。本日の審議内容に基づき、事務局は評価票の修正等をお願いします。

最後に、次第4、その他ですが、まず、委員の皆様から何か意見ございますか。

なければ事務局からいかがでしょう。

○事務局 本日、ご確認いただきました第3回協議会の会議録及び評価票につきましては、修文の上、内容を会長、副会長そして皆様に確認いただいた上で、公開の手続を進めさせていただきます。

また、本日の会議録と審議いただいた資料3の事業につきましては、いただいたご意見を踏まえまして、皆様に改めて確認の依頼をさせていただきたいと考えております。

本日の会議をもちまして、令和2年度の府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会は終了となります。ご多用の中、皆様には15の施策事業につきまして、進捗状況の評価をいただきました。いただいたご意見への対応につきましては、今年度は特に所管部課にも出席説明させましたので、皆様のご意見の趣旨等を直接におうかがいできておりますので、例年に増して施策事業への反映が適切になされて、事業がよりよいものに改善されることと思います。来年度につきましても、各施策の進捗状況について評価いただくこととなりますので、委員の皆様には引き続きご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

事務局からは以上でございます。

○会 長 以上をもちまして、令和2年度第4回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を閉会いたします。